第２回千代田区川沿いのまちづくりガイドライン検討会

議事要旨

日時	令和４年 10 月 21 日（金）11 時～12 時
会場	和泉橋区民館２階　洋室 A･B
出席	12 名（1 名欠席）
議題	千代田区川沿いのまちづくりガイドラインについて （１）第１回千代田区川沿いのまちづくりガイドライン検討会意見対応について （２）千代田区の川沿いの現状･課題･方向性について

議事要旨

開会

議題
（１）第１回千代田区川沿いのまちづくりガイドライン検討会意見対応について
事務局より説明

- 千代田区川沿いのまちづくりガイドラインについて、事務局から前回検討会での意見を踏まえた資料の更新を行っている旨の説明を行った。

議題
（２）千代田区の川沿いの現状･課題･方向性について
本日の見学会の感想を含めて、川沿いの現状･課題･方向性について各委員より意見

- 竜閑さくら橋･柳橋ではたくさんの保育園児が散歩にきていた。車の心配がなく、日の光が燦々と降り注ぐ環境を考えると、川沿いの使い方として子どもたちの散歩という観点があると確認できた。子どもたちの使える場所が増えると良いと感じた。
- 和泉橋･柳橋の防災･水上船着場は鍵がかかっており、通常利用しづらい状況になっている。普段から使えるようにして、災害発生時には消防･行政･警察等が使うようすればよい。
- 亀島川緑道周辺を散策し、中央区の説明資料に記載されている整備費用以上に素晴らしい出来であると感じた。鎌倉橋の辺りでは、首都高速道路が川を覆っており暗い印象を受けたが、竜閑さくら橋の上までいくと少し見晴らしがよかった。鎌倉橋の辺りは土地の価格が高いので、実際整備するには難しいのではないかと感じた。
  一方で、柳橋のあたりは江戸情緒が残っており、川沿いの道が整備されているため、まちとまちをつなぐ環境が整っており良い印象を受けた。難しいと感じるが区内の川沿いもつながりを持たせたいと感じた。
  万世橋周辺の川沿いは、整備されてきており良い印象を受けた。
- 天候によって印象は大きく変わると思うが、本日は天気が良く、どの見学地点についても好印象だっ

た。見学したところは水辺の親水性・回遊性を広げる始まりの地点であるものだと感じた。いろいろな施設を作っているが、安全性を重視しており楽しめる感じにはなっていなかった。
また、楽しめるようにするためにはハードの整備以上に、ソフトの取組みについて課題が大きいと感じた。

- 亀島川緑道については親水的な空間がコンパクトにまとまっていた。また、護岸沿いに秋の七草が植えられていたが、中央区の職員による説明では地元のボランティアの方が協力して季節ごとの草花を植えているとのことだった。神田川・日本橋川についても整備が進むにつれ、そういった環境・景観になればよいと思った。
- 鎌倉橋では、川沿いで野球を遊んでいた当時の記憶・光景がよみがえり、振り返ると当時の日本橋川はヘドロが浮き、メタンガスが湧き出ていた記憶があり、昔はもっと汚かったことを改めて感じた。
今日の見学で日本橋川と神田川をみて神田川の方がまだ水質がいいと感じた。隅田川から直接水が入ってくる神田川と曲がりくねった日本橋川の違いで水の循環の問題ではないかと感じた。日本橋川の水質や見た目の改善の余地は、まだあるのではないかと思った。
- 小学生を連れてよく船上から見学会を行うが、船が好きな人は船にはよく乗っており、船にあまり乗らない人にはハードルが高いものだと思われている。その一つの要因として船酔いの心配がある。船に初めて乗る人には、いつでも陸に上がれるということが伝わるかどうかは大事で、船酔いした場合の緊急時には、防災船着場は陸地へ上がる重要な場所となる。防災船着場の鍵を内側から開けるということは構造上難しいことではないため、ぜひ検討してほしい。
- 日本橋川沿いにある昭和初期に建てられた日証館では建築物の特徴的な基壇部が堤防によって隠れている。そういった堤防の中に隠れているものを見せていきたい。それは、明治から大正、昭和の技術がたくさん川沿いにあることを見せていくべきだからである。マーチエキュートも同様に堤防に隠された当時の技術があり、水の中からどのような方法で見せ伝えていくのか、現在の堤防の形ではなく、可動堤防やアクリルを使った堤防など現在の安全を保ったまま資源を見せていくことも可能なのではないかと考える。
- 観光協会では、コロナの影響で千代田区に来訪する人が減少していく中で観光により来訪客を増やす活動を主に行っている。観光客を増やすという観点で今日視察した川を見ると、隅田川くらいの規模があれば、舟遊びなどのアクティビティを主目的に川へ遊びに行くということは可能性としてあるが、神田川・日本橋川の規模だと川遊びを主目的として千代田区に来てもらうのは難しいのではないかと思った。
- また、観光的な観点で千代田区に来る際は、日帰りではなく、ホテルなどに宿泊してもらいたいとよく考える。今日見た所でも川の周辺には、多くの宿泊施設が存在することが確認できた。宿泊客の中には、朝食の前に散歩をする人が多くいるため、千代田区は環境的に優れていると感じた。そのため、川沿いを歩く環境を整備することは重要であると考える。実現の可能性等の検討は必要だが、川沿いの建築物に対して、川に開けたまちづくりへ誘導し、川沿いを歩けるようにする、親水性を高めるために民間の敷地・建築物に対して制限をかけることを具体的にガイドラインで明確にすることが重要だと思った。
- 首都高速道路による閉鎖的な空間は、マイナスはありつつも、夏場の暑い時期では日差しをしのげ

るといった見方もある。

- 事業目線では、川沿いに公共施設や道路があるところは開けた空間が作りやすいが、宅地が川に張りついているところで、大規模開発も難しそうな場所では、川に面した顔づくりを促すアイデアが浮かびづらい。一方で、川沿いの道路や公共施設の後背地に民地があるようなところでは、公共空間の使い方を民地の開発とセットで考えるなどの工夫ができるのではないか。
- 大手町川端緑道の川に面して設置されたフェンス（柵）・植栽により川が見えないのは残念であった。今日見学をした亀島川では、コンクリートの塀をとって見通しのきく柵に変更したことで開放性を感じられた。川を見せる工夫の重要性を改めて感じた。
- 竜閑さくら橋で保育園児・子どもたちが遊んでいた様子を見て、橋は道路空間としてとらえがちだが、橋上広場というとらえかたもできるのではないかと思った。また、JR の車両も多くみえるスポットであるため、電車が好きな人にとっては、価値は異なるのではないかと感じた。

  川沿いのまちづくりの観点で現地をまわってみると、少しずつではあるが長い年月を経て、川沿いの景観は良好な方向に進んでいると感じた。建築物が川の方へ開かれた形でのデザインにはなってきているのは、川の価値観の変化も影響としてあるが、景観指導や開発指導などの行政指導が進んできた結果でもある。今後はさらに一歩進めて地区計画のような制度の中にも取り入れ、指導の部分と誘導規制部分の連携を図ることでより一層川沿いのまちづくりを盛り上げていけないかと考えている。川沿いのガイドラインでは、拠点整備・再開発のようなものに対して、水辺は重要な視点であることをしっかりと示していければよいと思う。
- 今日の見学でごみの放置や鎌倉橋の歴史的価値のある場所などの運営・管理について問題が見受けられた。河川管理は東京都、水面・法面の管理は区と管理が分かれている状態がある。川沿いの公共空間の維持・管理は魅力を発信していく上で重要だと感じた。
- 亀島川のアダプト的な取り組み、官民連携の観点はガイドラインでしっかりと示していくことが重要だと考える。
- 川で遊ぶという観点も大事な点だと考える。例えば、船が通らない水深が浅いところを活用し、水にふれ遊ぶ場所が作れないだろうか。魚がいる場所には釣りをしやすい環境整備ができないだろうか。前回の検討会で、親水性・川にふれる機会・場所が少なくなっているという意見があったので、川で遊ぶというポイントを検討していくのも良いと思う。
- 目指していく方向性は、生活の脇に寄せられた川を生活の中心に戻していくことだと思う。それは、川から「見る」「遊ぶ」「楽しむ」「観光」「歩く」といった様々な活動を川の周辺にまとわりつかせることが求められる。
- 現地を見て、亀島川のように水辺に近づけるというのはいいことであると感じたが、一方で千代田区の日本橋川・神田川は建て詰まっていて物理的な問題があると感じた。そのような環境下でガイドラインではどこまで踏み込んでいくのかを考えると、絵に描いた餅でもいいので、理想を打ち出しても良いと思った。例えば、水面に近づけるテラスをつくるという絵を出し、テラス空間のよるメリット（船が寄り付くこともできる・遊び（アクティビティ）の展開・釣り場等）や活動の広がり、ハード面の理想像をあらわしていくことも手法のひとつであると思う。また、そういった場を横につなげる（例えば、水→防災船着場→防災船着場の階段→建物までの道）という観点も重要である。ハードな話に偏ってい

るが、今日見学で見られた子どもたちが遊んでいる光景は場所が無ければ生まれなかったと思う。場があれば人は見出だすと思うので、委員のみなさまがいったようなことを叶えるための場所について、まずはハード面側から理想をうたってみるという観点もあると思った。

- 亀島川に比べて日本橋川・神田川の高潮の防護レベルが高い環境であるため、水辺が遠いのは防災上の与条件として制約があることを改めて確認した。今日視察した箇所を見て、ある程度の空間（幅と延長）がある場所には人は集まってくると感じた。一方、条件がなかなか厳しいところでは、水辺にある公共空間のみで水辺と陸の連携を作っていくのは限界があるため、まち側と一緒に作っていくことが重要だと考える。
- 鎌倉橋の北側にある行政の敷地が閉鎖的な使い方をしているのを見て、地上部分のみでも開けた環境づくりができるように感じた。例えば、新しい横浜市役所のように 1 階・2 階に商業施設などが入っていて、敷地の脇には大岡川が流れている環境がある。利用する人にとっては、水辺にある商業施設に市役所が付いている感覚の人も多く、市役所に用事がない人も足を運ぶ環境が実現している。その施設では SUP などの水上アクティビティ拠点として利用されており、大岡川を楽しむ場所にもなっている。行政財産の低層部の活用方法についてもガイドラインで考えていきたい。民間開発時の誘導もあるが、まず先頭を切って行政が形を示すというのもいいのではないか。
- 東京の水辺は、ぶつ切りになっているといった印象を強く感じ、水辺豊かな都市には感じられなかった。日常の中に水が表れてこないと人々は認識しない。できるだけ水は特別ではなく、いつでもそこにあるものとして取り戻していくことがとても大事なことだと思う。
  大規模開発、個別の建物の建て替え、公共のハード整備、それぞれ制限があるとしても、できることはたくさんあると感じた。
- 和泉橋の防災船着場を見て、横には鎌倉橋という歴史的な橋があるのに活かしきれてなく、寂しい感じを受けた。もう少し色気が欲しいと感じた。当時の復興局のエンジニアたちは、神田の入り口となる情緒が溢れる環境に似合うアーチ橋を架けているが、後世の我々は応答できていない気がする。
- 海外で泊まった安いホテルの朝ごはんを食べているときに見える運河、その窓から見える水はきれいなものではないのだが、そこには観光地の日常が感じられる風景がある。観光客の記憶に残るのは、観光地の代表的なスポットだけではなく、そういった観光地の小さな日常の情景が思い出として残る事もある。観光の視点で、東京に訪れた観光客の情景に少しでも水辺を増やしていくことが大事である。大きな事業で進めていくという考えもあるが、それだけで解決していくことではなく、ひとつひとつ小さなことを連担していくことで、身近に感じられる水辺空間を東京の日本橋川・神田川から作っていく必要があると見学を通じて感じた。
- 保育園児が楽しそうに川沿いや人道橋を散歩していた風景が、本日の最大の収穫であると感じた。

その他

- 次回検討会は 11 月 16 日に開催の予定。